

## 医学群 3 学類小グループ討論の支援について

郷田 規久子<sup>a)</sup>、菅江 則子<sup>a)</sup>、廣瀬 美鈴<sup>b)</sup>

<sup>a)</sup> 筑波大学医学系技術室（医学教育企画評価室（PCME）：カリキュラム担当）

<sup>b)</sup> 筑波大学医学系支援室（医学教育企画評価室（PCME）：カリキュラム担当）

〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1

### 概要

医学群 1 年生対象の小グループ討論での医学教育企画評価室（以下 PCME）に配置されている技術職員の業務内容の報告と役割を検討する。

**キーワード：**チーム医療、教育支援、小グループ討論

### 1. はじめに

現在、医療の現場においてチーム医療が必要とされ、そのチームワーク力が重要視されてきている。また、筑波大学医学専門学群では開学当初よりチーム医療を意識した教育カリキュラムを実施してきた。そして、平成 15 年度に看護・医療科学類が医学群に加わり、チーム医療を学ぶ一環として医学類 3 年生・看護学類 4 年生・医療科学類 4 年生を対象にケア・コロキウム（チームワーク演習）を企画、平成 18 年度より実施してきた。その後、平成 19 年度「特色ある大学教育支援プログラム」（特色 GP）に「チーム医療実践力育成プログラム」が採択され、チームワークの早期体験の導入が検討されることとなった。

### 2. 平成 20 年度小グループ討論実施までの流れ

#### 2.1 企画・検討

平成 19 年度の特色 GP 採択をきっかけとして、他職種の学生が合同で学ぶ機会を増やしたいという学群としての方針により、フレッシュマン・セミナーに 3 学類合同の小グループ討論が導入されることとなった。

実施までには検討会が 3 回開かれ、担当教員は医学 M1 総コーディネーター（3 名）、3 学類の次年度 1 年生クラス担任（11 名）、PCME 室員（4 名）によって検討された。

第 1 回検討会では導入の提案がされ、実施案が提示された。

第 2 回検討会では第 1 回の提案を受けて小グループの題材、グループ数と教員の吊り合いなどを検討した。

第 3 回検討会では具体的な題材の決定、目標、学習の進め方など具体的な内容が決定された。

#### 2.2 実施

小グループ討論は 2 コマ（2 時限分）を用意し、1 週に 1 コマずつ、2 週にわたり「チーム討論『つくば生活サバイバル』」と題して実施した。学生へは前週に実施要項を配布し、当日速やかに実施できるようにチーム討論の目的、当日の流れ（表 1）、討論するテーマ（4 テーマ）などあらかじめ提示しておいた。

参加人数	医学………96 名	
	看護学………72 名	
	医療科学……38 名	合計 206 名
グループ数	35 グループ（5～6 名/1 グループ）	
使用教室	9 教室	
参加教員	10 名	

表 1. 平成 20 年度小グループ討論スケジュール

	時間	内容	所要時間
1 日目	12:15-12:30	オリエンテーション	15 分
	12:30-13:00	アイスブレイク	30 分
	13:00-13:30	チーム討論 1	30 分
2 日目	12:15-12:45	チーム討論 2	30 分
	12:45-13:30	グループ発表	45 分

グループ発表方法は模造紙 2 枚にまとめた内容で部屋ごとに発表を行った（図 1 および 2）。

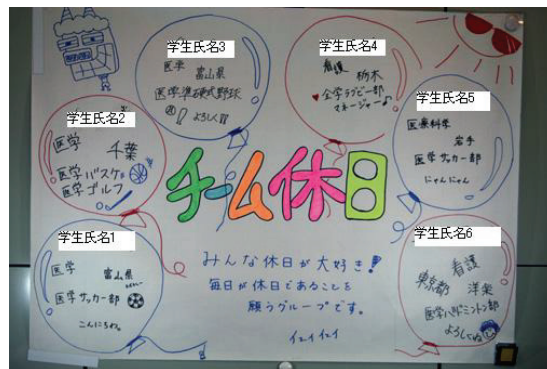


図 1. アイスブレイクでまとめた内容の一例（チーム名、メンバーの紹介など）

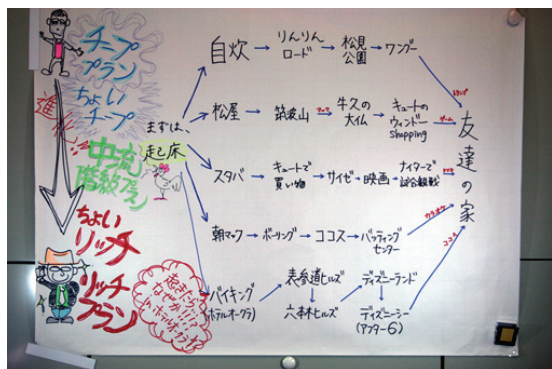


図 2. チーム討論でまとめた内容の一例

表 2. 平成 21 年度小グループ討論  
スケジュール

	時間	内容	所要 時間
1 コマ	12: 15-13: 30	講演会	75 分
2 コマ	13: 45-15: 00	小グループ討論 (自己紹介とアイスブ レイクタイムを含む)	75 分
3 コマ	15: 15-16: 30	グループおよび個人レ ポート作成	75 分

討論結果はグループでまとめたレポートと個人でまとめたレポートの提出のみとし、発表会は行わなかった。

## 2.3 反省点

3 学類で話し合う機会を持たせたことは大きなメリットだったが、反省点として、テーマが医学に関する内容ではなかったことと、討論の時間が短かったこともあり、討論の内容が浅い点が上げられた。

## 3. 平成 21 年度小グループ討論実施までの流れ

### 3.1 企画・検討

平成 20 年度の企画の反省点を踏まえ、フレッシュマン・セミナーとは別立てで小グループ討論のための検討会、担当教員を配置し、企画を起こした。

担当教員は医学類 2 名 (PCME 室員)、看護学類 1 名、医療科学類 1 名の計 4 名によって検討実施された。

検討会は 1 回開催され大まかな内容がその場で決定し、微細な変更、日程調整などはメールによるミーティングで連絡を取った。

### 3.2 実施

平成 21 年度は 3 コマによる構成にし、1 日で終了する形を取った (表 2)。

実施要領は講演会の前に学生に配布した。テーマは「人工呼吸器装置 ALS 患者さんとそのご家族の講演『自分らしく生きること』を聴いて」と題し、討論をしてもらった。

参加人数	医学	102 名			
	看護学	70 名			
	医療科学	38 名	合計	210 名	
グループ数	51 グループ (4~5 名/1 グループ)				
使用教室	4 教室				
参加教員	4 名				

前はグループの構成は必ず 3 学類の学生が入っている事に重点を置きグループ分けしたが、今回は医学の学生数が多く、前回と同様にグループ分けをしたのでは 1 グループあたりの学生数が多くなり、発言をしない学生が出てくることを危惧し、1 グループの学生数に重点を置いてグループ分けを行った。

### 3.3 反省点

今回医療に関するテーマだったため、学生からの評価はとても良かった。

教員からも今後も続けて欲しいとの声があった。

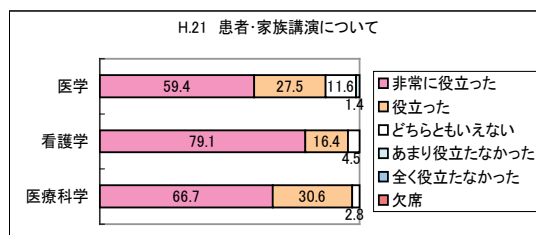
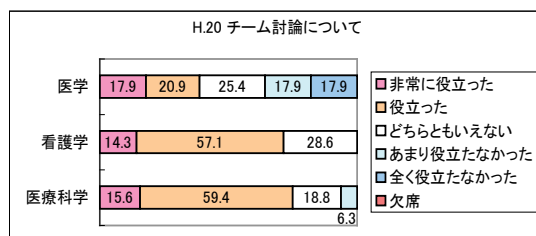


図 3. 学生アンケート

## 4. PCME 技術職員の業務内容

### 4.1 企画・検討

企画・検討にあたり PCME 技術職員の業務として

- ・ 過去のフレッシュマン・セミナーの資料集め
- ・ 小グループ討論の導入が可能か 3 学類のカリキュラムの確認
- ・ 学生の割り振り
- ・ 学生数に合わせた教室の手配
- ・ 演者との日程調整 (平成 21 年度)
- ・ 検討会の日程調整
- ・ 検討会時の教育設備、教室、学生のカリキュラムスケジュール、学類の所有物品などについての助言
- ・ 検討会議事メモの作成、議事資料の印刷などを行ってきた。

## 4.2 実施

小グループ討論実施に向けて

- ・ 実施要領の取りまとめ
- ・ 印刷
- ・ 学生、担当教員への配布

を行った。

また、実施の際には使用教室が 2~4 棟 (7~9 教室) に別れ、尚且つ入学して 2 ヶ月程の 1 年生ということもあり、それぞれの教室への速やかな誘導がスムーズな授業運営に不可欠な要素となる。

その他には

- ・ 必要物品のセッティング (模造紙、マジック、マグネットなど) (平成 20 年度)
- ・ 教育設備の準備 (マイク、パソコン、プロジェクターなど)
- ・ 使用した物品の回収
- ・ 教室の原状復帰の確認
- ・ レポート、アンケート回収
- ・ 演者の出迎え、お見送り (平成 21 年度)

## 4.3 実施後

実施後の業務として

- ・ レポートの取りまとめ・保管、未提出者のチェック
- ・ アンケート集計
- ・ 反省会資料作成・印刷
- ・ 反省会日程調整
- ・ 反省会議事メモ作成 (次年度への申し送り事項の確認)

などがあげられる。

## 5. 今後の支援体制

これまで実施してきた支援の質を落とさず、更には小グループ討論実施のためには必要不可欠な存在として期待されるような PCME 技術職員に求められるであろう内容を下記に挙げた。

- ・ カリキュラム、教育設備等の情報の蓄積
- ・ 蓄積された情報からの確に情報の提示や助言などができるようそれらの情報の整理
- ・ PCME 技術職員間情報の共有とコミュニケーション
- ・ 担当教員との確実な連絡体制、情報の共有、コミュニケーション
- ・ アンケートの集計、わかりやすい資料作成など情報の提示方法と統計処理のスキルアップ

どれも当然のような内容であるが、職員間の情報の共有など相手もわかっているだろうとの思い込みやちょっとした勘違いがスムーズな運営を妨げる。また、情報の整理や情報処理のスキルアップなどは日常の業務に押されてしまい後回しになりがちで思うように進められない (身につけられない) 部分と思われる。

これらのことから教育支援担当技術職員としてのステップアップが図れるよう PCME 組織全体で日常の業務の見直し、合理化を図ることが必要とされる。

## 6. まとめ

小グループ討論に限らず、教育支援担当として教員が目指している目標を知り、理解し、納得をしてその目標に向けてよりよい支援ができるよう業務を遂行することが PCME 技術職員に求められているものではないかと考える。

1 年生で行った小グループ討論は医学 3 年生、看護学・医療科学 4 年生で行われるケア・コロキウムに繋がっていき、ここでも PCME 技術職員が支援を行っている。また、このケア・コロキウムは他大学と共同で行う計画も現在進行している。ますます教育支援職員に求められるスキルが高くなると思われる。少しでもその要望にこたえられるよう日々の努力と向上心が必要と考える。

## Small group discussions in the 3 colleges of the School of Medicine and Medical Sciences

Kikuko Gohda<sup>a)</sup>, Noriko Sugae<sup>a)</sup>, Misuzu Hirose<sup>b)</sup>

<sup>a)</sup>Institute of Medical Science, Technical Service Office for Medical Science, University of Tsukuba,  
1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8575 Japan

<sup>b)</sup> Academic Service Office for Medical Sciences, University of Tsukuba,  
1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8575 Japan

A technical official was assigned to the Office for the Planning and Coordination of Medical Education (PCME) to supervise small group discussions by first-year students in the School of Medicine and Medical Sciences. The work done by this official is reported here along with an examination of his role in medical education.

**Keywords:** team care; academic assistance; small group discussions